

八雲町議会議長 能登谷 正人 様

八雲町議会文教厚生常任委員会
委員長 黒 島 竹 満

委 員 会 調 査 中 間 報 告

本委員会が、閉会中の継続調査として平成27年12月11日に決定を受けた所管事務調査について、中間報告すべきものと決定したので、会議規則第45条第2項の規定により下記のとおり報告いたします。

記

1 調査事件

(1) 保健・福祉行政に関する調査

感染症対策に関する研修会・講演会の開催

2 調査の経過

本委員会では、閉会中の所管事務継続調査事項とした保健・福祉行政について、とりわけ感染症予防について注目し、八雲町及び他町の感染症に対する取組状況を学ぶため、八雲総合病院医師及び今金町担当職員に講師を依頼し、研修会を行った。

また、4月から日本脳炎ワクチンが定期接種化されたが、通知を受け取った町民の反応はあまり良くなく、必要な情報が行き渡っていないと感じたことから、八雲総合病院小児科診療部長 吉田 雅喜 医師のご協力を頂き、町民にワクチンに関する正しい情報を伝え、理解を深めていただくことを目的に講演会を開催した。

この講演のアンケート結果から、町民の間では感染・ワクチン・医療に対する関心が高いが、そのことに関する情報が少ないという意見が多かったことから、再度、吉田医師のご協力を頂き、高齢者肺炎と肺炎球菌ワクチンに関する医療講演会を開催することとした。

肺炎球菌ワクチンに関する講演は、八雲会場と熊石会場でそれぞれ1回ずつ開催し、肺炎とワクチンの関係について情報提供を行った。

今後の取り組みとして、関係各課の連携不足や情報の共有が図られていないことから、それらを解消するため、委員会として新たな組織作りに向けた提言や政策提案をしていきたいと考えている。

3 講演会の概要

(1) 日本脳炎とワクチンに関する医療講演会

主 催：八雲町議会文教厚生常任委員会

①開催日時：2016年5月18日（水） 昼の部 午後1時00分から
夜の部 午後6時30分から

②開催場所：八雲町図書館（八雲町相生町98）

③講 師：八雲総合病院小児科診療部長 吉田 雅喜 医師

④参加者：町民・職員等（79名）

⑤講演の内容

八雲総合病院小児科診療部長 吉田雅喜医師より「日本脳炎とワクチン」と題し、質疑応答を含め約1時間程の講演をしていただいた。

医療講演会の目指すところとして、新たに定期接種として始まった日本脳炎ワクチンについて住民に正しい情報を伝えること。住民の皆様が医療・医療行政に何を望んでいるかを感じ取ること。住民の皆さんと病院（小児科）との間にある壁を取り除き、敷居の高さを感じないようにしていきたいという話をされた。

日本脳炎は、コガタアカイエカという蚊によってウイルスが媒介され、自らは脳炎にはならないブタの感染状況が大きく関係していること、厚生労働省は、日本脳炎対策の一環として毎年流行期にブタの感染状況を調査しているとのことがあり、日本（本州）では1967年から積極的ワクチン接種の結果、劇的に日本脳炎患者は激減しているという、全国での患者発生状況をお話いただきました。

北海道でのワクチン接種の必要性では、地球温暖化の影響や交通手段の多様化で人の移動が多様化している状況で、蚊の移動域の拡大や、人の移動により感染リスクを共有することができました。中・高齢者の任意接種についても個々の判断材料としては理解することができた。

積極的勧奨の差し控え時期もあり、副作用についても重症のADEM（急性散在性脳脊髄炎）を発症した小児について、厳格な科学的証明に基づくものではないが、ワクチン接種との因果関係が認められたことを受けてなど、今までの経緯や副作用が起きてしまった時の対応もお話いただきました。

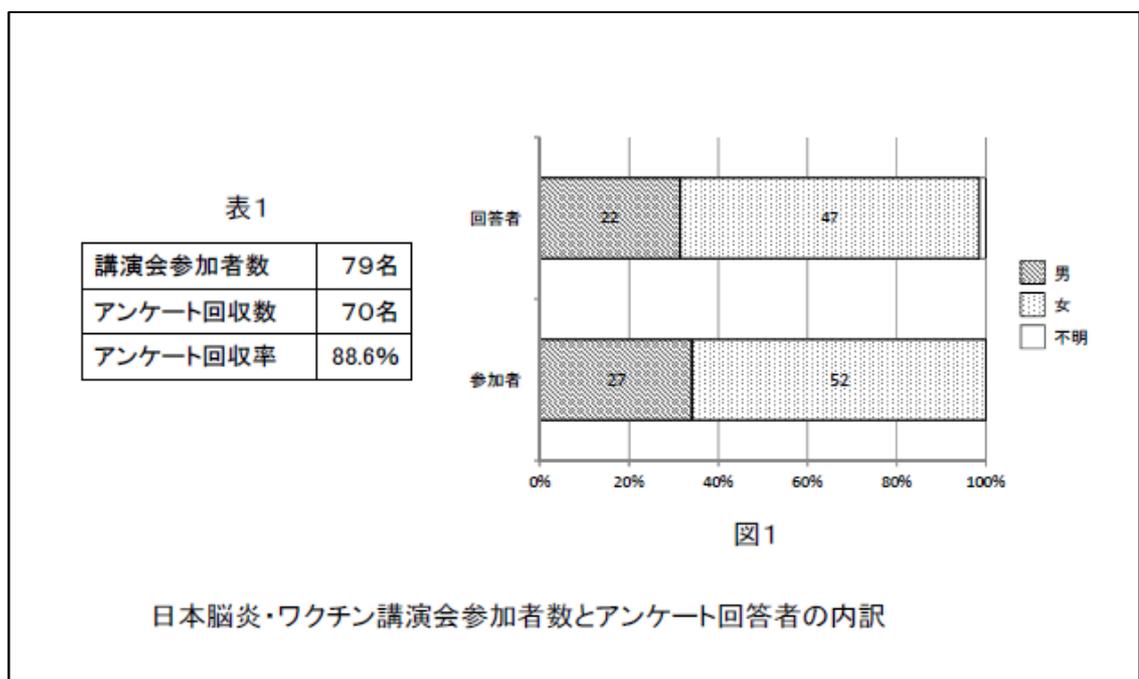
最後に、正しい情報を共有することで、住民の皆さんの健康と安心を守ることができると結ばれた。

⑥まとめ

- 受講動機は自分や家族のためが88.6%と関心が高い
- 「日本脳炎あるいはワクチンに興味がある」に次いで、「ワクチンに関する情報が少ない」が受講理由となっている
- 今後の講演会希望には、感染・ワクチン・医療に対する関心が高い

- 期待した情報は提供されたかについては、87.2%が大いに満足・満足と回答
 - 議会が主催することに、65.7%の方が全く違和感を感じないとしている
 - 開催周知方法について再考する必要がある
 - 医療等についての住民の関心が高い事、情報が少ない事がわかる。ワクチンに関する正しい情報を伝え、理解を深めるにとどまらず、医師との距離を縮め、相互理解を深める一助となった。
- しかし、行政の関与が薄く、関係各課の相互理解がない事が明確となった。病院・住民・行政を結ぶための新たな組織作りに取り組むべきではないか。

⑦アンケート結果：



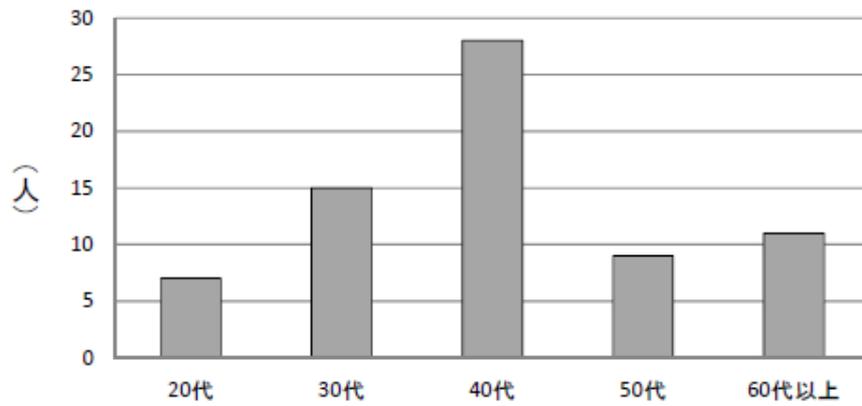
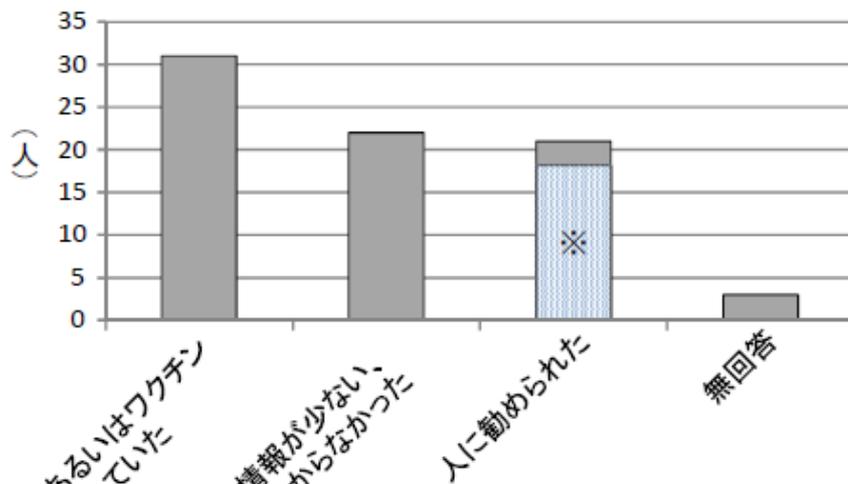


図2 アンケート回答者の年齢分布



※『人に勧められた』を受講理由に挙げた人(21名)のうち3名のみが他の理由を併記しており、残り18名(85.7%)は人に勧められたことのみを受講理由としている。

図4. 受講者の受講理由

表2. 年齢別・性別 受講動機
(複数回答可)

	20代		30代		40代		50代		60代以上	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
回答者人数	4	3	5	10	9	18	1	8	3	8
自分のため	2 50.0	2 66.7	2 40.0	3 30.0	6 66.7	7 38.9	1 100.0	3 37.5	0 0.0	4 50.0
子、孫のため	2 50.0	1 33.3	2 40.0	9 90.0	4 44.4	10 55.6	0 0.0	4 50.0	1 33.3	1 12.5
所属施設のため	2 50.0	2 66.7	4 80.0	5 50.0	1 11.1	8 44.4	0 0.0	2 25.0	2 66.7	1 12.5
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5

受講理由	
受講理由に個人的な(自分、家族にため)理由を挙げているもの	57名(75.7%)
受講理由に組織な(所属施設のため)理由のみを挙げているもの	13名(24.3%)

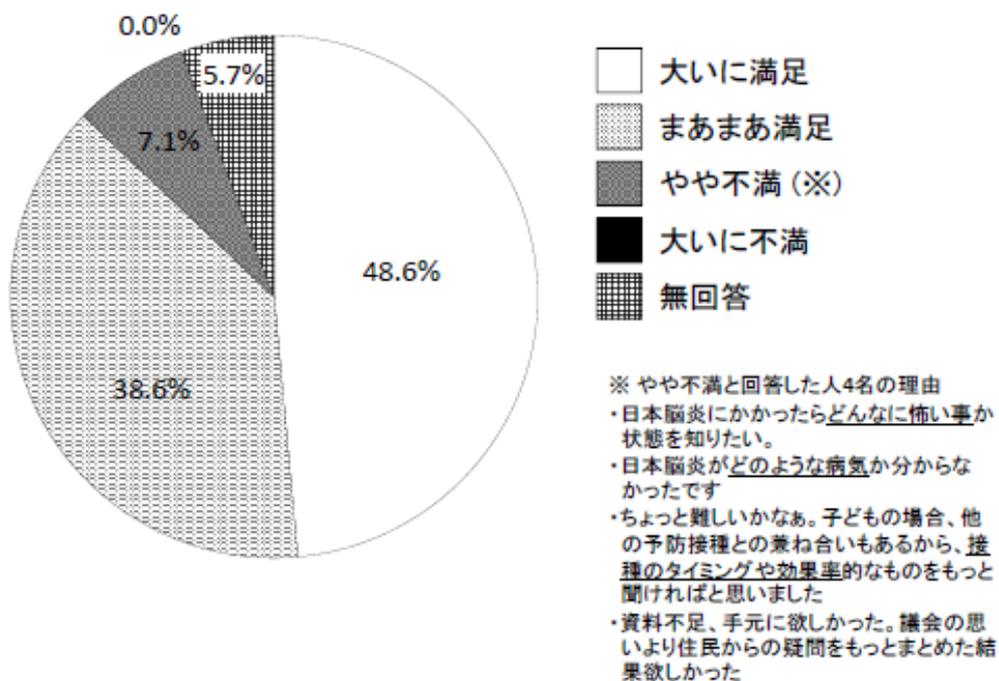


図5. 講演会では期待した情報が取得できたか？

(2) 高齢者肺炎と肺炎球菌ワクチンに関する医療講演会

主 催：八雲町議会文教厚生常任委員会

【八雲地域】

- ①開催日時：2016年6月15日（水） 昼の部 午後1時00分から
夜の部 午後6時30分から
- ②開催場所：八雲町図書館（八雲町相生町98）
- ③講 師：八雲総合病院小児科診療部長 吉田 雅喜 医師
- ④参加者：町民・職員等（61名）

⑤講演の内容

八雲総合病院小児科診療部長 吉田雅喜医師より「高齢者肺炎と肺炎球菌ワクチン」と題し、質疑応答を含め約1時間程の講演をしていただいた。

講演では、日本人の死因の第3位が肺炎で亡くなっているという事から始まり、平成26年から定期接種となっていたが、参加者の皆さんは知っていましたかという事で、八雲広報でのお知らせ記事を参照して説明があった。また、これまでに吉田医師が行ってきた肺炎球菌ワクチンに関する講演会でのアンケートの分析結果などを提示して、ワクチンを接種しない理由の講演前後での気持ちの変化などについても説明いただいた。

また、高齢者が肺炎にかかりやすい理由や、子どもとの関係を例にワクチン接種の有用性についてのお話や、定期接種の対象である肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の効果持続期間が短い事から2回接種を推奨していることや、子供向けのワクチンである「プレベナー13」と併せた接種により、より有効な予防につながるのお話をいただいた。

⑥まとめ

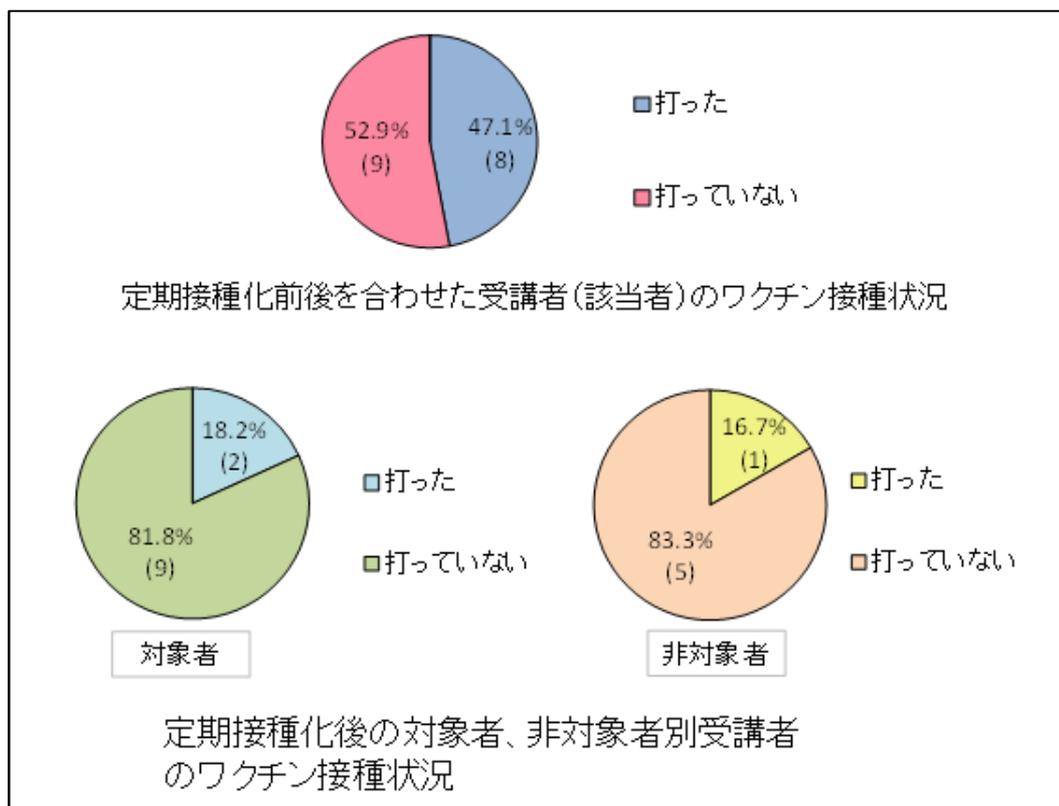
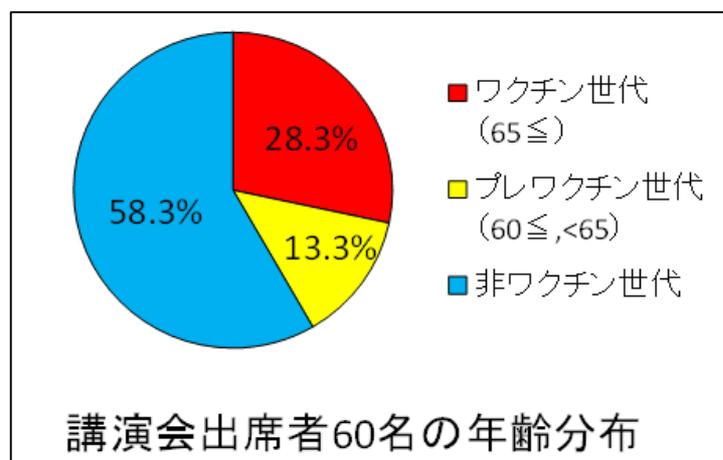
- 講演会出席者の年齢構成分析では、65歳以上の該当世代の出席率は30%に及ばず、プレ該当世代（60～64歳）を含めても過半数を超えられなかった。
- 出席者における肺炎球菌ワクチン接種定期化前を含めた接種者累計では、約半数がワクチン接種を済ませている結果が得られた。この予想外の結果は、真の町内でのワクチン接種率の実態を反映しているとは考えにくく、単に肺炎球菌ワクチンに関心の高い人が講演会に多く出席された影響と考える。
- 実際、ワクチン接種該当年齢の集団では、80%以上が未だワクチン接種を終了していない。
- 高齢者に対する肺炎球菌ワクチンの定期接種化に関する認知は該当世代、プレ該当世代のいずれにおいても90%近くにまで達しており、よく周知されていると考えられる。しかしながら、今後周知機会が減少するとともに、予防接種率が低下する可能性も否めない。
- 本講演会の本来の目的は高齢者におけるワクチン接種の勧奨であり、講演前後で

のワクチン接種希望率は、該当世代においては66.7%⇒100%、プレ該当世代では62.5%⇒82.5%と明らかな上昇を認めていることから、当初の目的は果たされたと思われる。

○今後の課題として、この類のイベントを企画する場合、集客のためにどのような手法を用いるかなどの戦略の再構築が必要である。

◎本アクションの今後に関する展望はいまだ不透明であり、本講演会が今一度、『誰が』『何のために』『何を行うか』を再度考え直す良い機会になったとすれば幸いである。

⑦アンケート結果



講演会出席者で現在、適応はあるが未接種の方8名にお聞きしました

質 問	はい	いいえ
ワクチンが平成26年10月より定期接種化になったことをご存知でしたか？	8 (88.9%)	1 (11.1%)
本講演前よりワクチン接種を希望されていましたか？	6 (66.7%)	3 (33.3%)
本講演後、ワクチン接種を希望されますか	9 (100%)	0 (0%)

プレワクチン世代（60～64歳）にお聞きしました

質 問	はい	いいえ
ワクチンが平成26年10月より定期接種化になったことをご存知でしたか？	7 (87.5%)	1 (12.5%)
本講演前では、将来ワクチン接種を希望されていましたか？	5 (62.5%)	3 (37.5%)
本講演後、将来ワクチン接種を希望されますか？	7 (87.5%)	1 (12.5%)

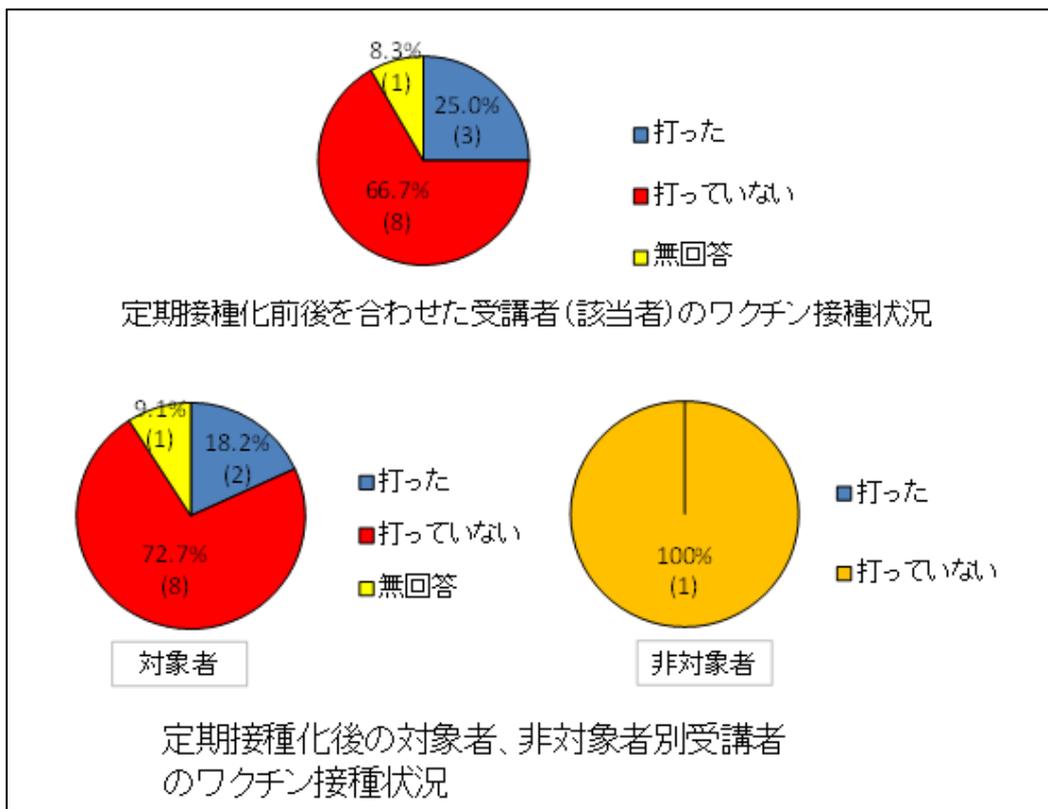
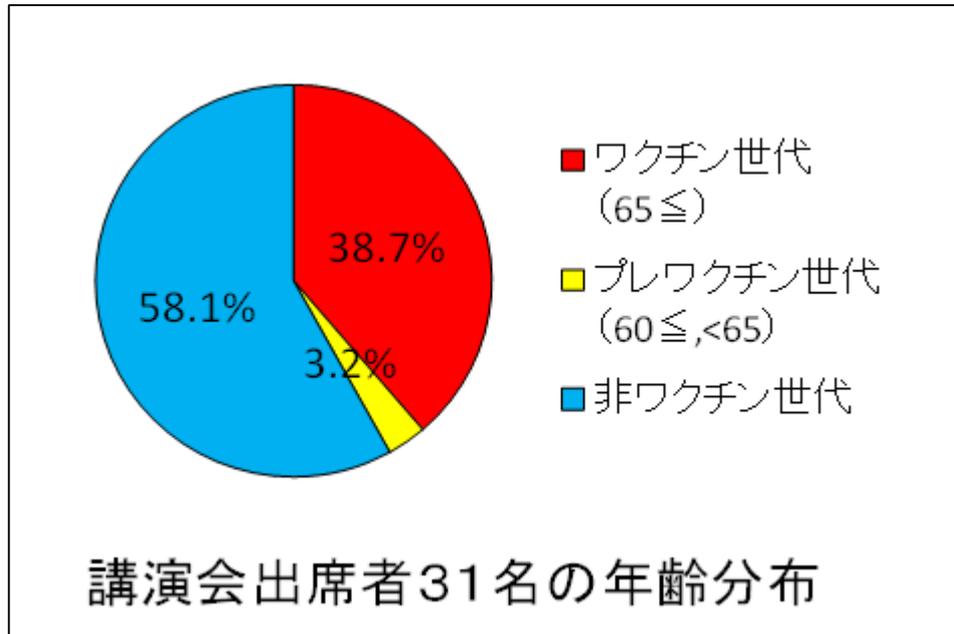
【熊石地域】

- ①開催日時：2016年7月20日（水） 午後4時30分から
- ②開催場所：ふれあい交流センターくまいし館（八雲町熊石雲石町135-2）
- ③講 師：八雲総合病院小児科診療部長 吉田 雅喜 医師
- ④参加者：町民・職員等（32名）
- ⑤講演の内容：八雲地域と同内容

⑥まとめ

- 講演会出席者の年齢構成分析では、65歳以上の該当世代の出席率は40%程度で、プレ該当世代（60～64歳）を含めても過半数を超えられなかった。
- 出席者における肺炎球菌ワクチン接種定期化前を含めた接種者累計では、25%がワクチン接種を済ませている結果が得られた。
- 実際、ワクチン接種該当年齢の集団では、70%以上が未だワクチン接種を終了していない。
- 高齢者に対する肺炎球菌ワクチンの定期接種化に関する認知は該当世代、プレ該当世代のいずれにおいても90%近くにまで達しており、よく周知されていると考えられる。

⑦アンケート結果



講演会出席者で現在、適応はあるが未接種の方8名にお聞きしました

質 問	はい	いいえ
ワクチンが平成26年10月より定期接種化になったことをご存知でしたか？	7 (87.5%)	1 (12.5%)
本講演前よりワクチン接種を希望されていましたか？	7 (87.5%)	1 (12.5%)
本講演後、ワクチン接種を希望されますか	7 (87.5%)	0 (0%)

プレワクチン世代(60~64歳)にお聞きしました

質 問	はい	いいえ
ワクチンが平成26年10月より定期接種化になったことをご存知でしたか？	1 (100%)	0 (0%)
本講演前では、将来ワクチン接種を希望されていましたか？	0 (0%)	1 (100%)
本講演後、将来ワクチン接種を希望されますか？	1 (100%)	0 (0%)

4 委員の感想

○黒島委員長

吉田先生には5月18日に行われました日本脳炎とワクチンに関する医療講演会では、お忙しい中、第1部・第2部と多くの情報を賜りました。

各施設関係者や子供や孫、自分のために講演会へ出席頂きました方々は、予防接種の情報が少なくよくわからない方がとても多く、講演会前より興味をお持ちのようでした。実際、吉田先生の講演をお聞きし大変わかりやすく日本脳炎とワクチンについてご理解を頂けたように思います。

主催者といたしましても講演会が行われた事について大変良かったですし、今後も講演会を通じ八雲総合病院の吉田先生と町民の距離が少しでも身近に感じられたらと思います。

また、これを機に町民と議会、八雲総合病院が一つとなり住民の皆さんに正しい情報を伝えるとともに、敷居の高さを感じない少しでも町民・施設関係者が安心して参加できる医療講演会を開催していきたいと思っております。

○横田副委員長

今回の日本脳炎ワクチンの講演会を皮切りに、町民に正しく医療関連の物事が伝わっていくことが望まれます。

吉田医師が（個人的に）言われていたようになっていけば（医師を知ってもらうこと等）、八雲総合病院のためになる。

○三澤委員

講演は聞きやすく、アツという間に1時間が過ぎていた。

話の進め方など、大いに参考にさせていただきます。

質問タイムに興味深い話がありましたね。馬への感染状況と症状を問うたものだったと記憶していますが、『なるほど！！』と隣で聞いていてヒザを打ちました。馬への感染実態が見つければ、コガタアカイエカの存在が証明される。そうなれば、人間への感染もあるはず・・・と、先生の注意喚起がより現実味を帯びるものだと思います。

質問者のいろいろな発言にも臨機応変に対応されて、この点も大いに勉強になりました。

○大久保委員

吉田医師の講演は医学的知識のない私にもとても分かりやすく、すんなりと理解できました。参加者も真剣に聞き入っており、健康と予防接種に対する関心の高さを感じました。

このような講演会を通じて、八雲総合病院のイメージアップと、総合病院を持つ町としてのメリットを町民の皆さまに感じていただければ当委員会としても幸いです。

今後も総合病院と町民の距離が縮まるような事業が、様々な形で開催されるよう促していくべきと感じました。

○牧野委員

日本脳炎についての知識としては、ワクチン接種による重篤な副作用というイメージがあり、近年、子宮頸がんワクチンの副作用がメディアで取り上げられていることもあり、いかなものなのだろうという思いも強く持っておりました。

吉田先生のお話を拝聴し、地球温暖化や国内外の移動交通手段の多様化などで、以前より感染・発症のリスクが高まってきているという現実と、我々が一番気になっていたところの副作用の現状を踏まえた上での接種のメリット・デメリットを大変わかりやすく教えていただきました。

今回このように、なかなか我々が知ることでできない医療の現状を深く知る機会をいただいたことを大変ありがたく思いました。

今後も継続して、様々な角度から医療の現状、問題点などを町民にお話ししていただく機会を増やしていただければと思いました。

○赤井委員

文厚委員会でいろいろ話し合っている中、ワンストップ窓口、行政の横の連携など、町民にとってより利用しやすい仕組みを実現するための方法、そして、町民の健康を守る『予防医療』を町民自ら取り組むための方法を学ぶ機会を作られないか、また、町民にとってお医者さまを身近に感じ、総合病院を応援する体制づくりもできないか等々の思いから、医療講演会を実施することとなりました。

テーマは、今年4月から初めて北海道で行われる『日本脳炎ワクチン』について。なぜ今、導入するのか？子宮頸がんワクチンのような副作用はないのか？ワクチンを打たなかった場合は？などなど、率直な疑問を解決していただくために、八雲総合病院小児科医の吉田先生に講演をお願いしたところ、快くお引き受けいただいたので、実現することができました。

委員会活動として取り組むことに多少の疑問の声も聴かれましたが、実際行った結果、「お医者さまのお話は難しいものと思っていたら、とても分かりやすかった！」「質問しやすい雰囲気、いろいろ聞いて良かった」「疑問が解決したので、ワクチンを受けることにした」などなど、参加された皆さまにも喜んでいただくことができ、本当に良い結果となりました。もちろん、今回の1回ですべてが解決するわけではありませんし、まだまだ不十分なところもあるので、これをきっかけに町民の皆さまと一緒に、いろいろな取り組みができればと思っています。

○岡島委員

委員会として初めて行う医療講演会を通じ、自分たちの健康に関することゆえに、住民の皆さんへきちんとした情報提供と、住民との議論の必要性を改めて感じることができた。病院（講演者）との距離が縮まることを実感できたが、委員と参加者の距離があったことは大いに反省し、住民への溶けこみを次に繋げたい。アンケート結果では、予防接種の情報提供の少なさやよくわからない、ワクチンについての興味が80%を占めている結果をどのようにとらえ、今後の課題解決に向け、委員会（塊）として、住民の思い（委員会の思い）をしっかりと政策提案に繋げるための議論をしなければなりません。

5 医療講演会実施後の問題点の整理

- ①集客の方法
- ②住民への正しい情報提供は乏しく、住民はそれを望んでいる
- ③多岐にわたる関係各課において情報が共有されていない
- ④情報が共有されると、住民は行動する
- ⑤当事者である担当課が感染・ワクチンを理解しているのだろうか
- ⑥予防接種の町民に対する周知の仕方が、なぜ必要なのかの説明ではなく制度が変わったことを説明するだけだった

- ⑦接種の説明や制度の説明をすることが目的となっていて、多くの人に受けてもらい病気の発症を抑えることを目的としていない
- ⑧各課に対して認識にずれがないか、目標をどこに置いているかを確認する必要がある
- ⑨課同士の連携がうまくいかないのであれば、もう一個、調節する人やシステムがあった方がうまくいくのではないか
- ⑩各課の取り組みで足りない部分を引き出すためにも、新しい組織を作って、そこに引っ張り出さなければ進まないのではないか
- ⑪委員会として、各論にばかり細かい事を言い過ぎたのではないか。例えば保健福祉課で言えば町民の健康を守るのがあなた方の仕事ではないですかと、なるところが、一つ一つの手段ばかり取り上げすぎて、大きな視点で見ることが出来てなかった。
- ⑫真剣に町民の健康を考えているのかと思われるような言動がある

6 今後に向けて

委員会の中では、病院・住民・行政・議会を結ぶための新たな組織作りに取り組むべきとの結論を得た。

今後の進め方としては、委員会として詳細に課題の抽出を行い、さらに一般会議を通じて住民から意見をいただき、執行部との意見交換を経て、最終的に委員会として政策提案につなげていきたい。

文教厚生常任委員長	黒	島	竹	満
副委員長	横	田	喜	世志
委員	赤	井	睦	美
	〃	牧	野	仁
	〃	大	久保	建一
	〃	三	澤	公雄
	〃	宮	本	雅晴